

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和7年12月22日（月）～28日（日）〔令和7年第52週〕及び令和7年12月29日（月）～令和8年1月4日（日）〔令和8年第1週〕の感染症発生状況

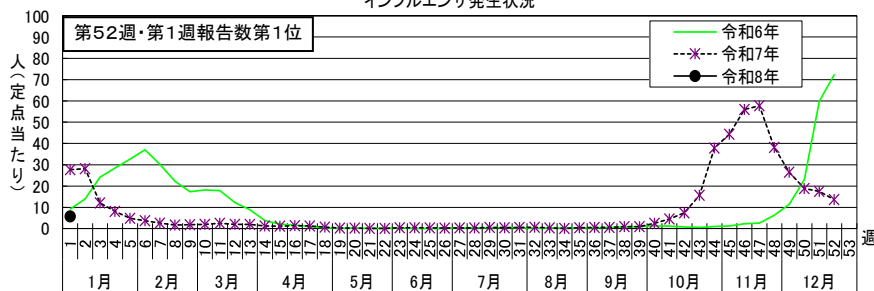
令和7年第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

令和8年第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。

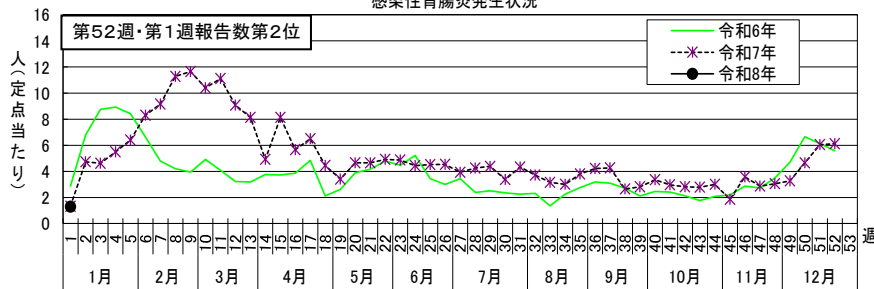
令和7年第52週のインフルエンザの定点当たり患者報告数は13.67人と前週（17.55人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

令和8年第1週は、年末年始で多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。

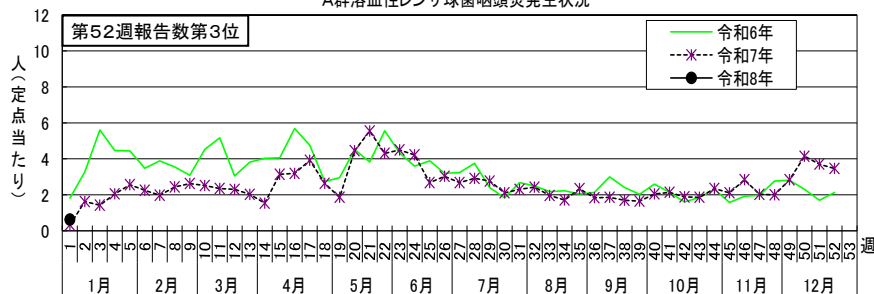
インフルエンザ発生状況



感染性胃腸炎発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況



海外旅行の後に気を付けたい感染症～麻しん（はしか）～

麻しんは、麻しんウイルスを原因とする急性感染症で、感染すると発熱や咳、鼻汁、発しん等の症状を呈します。我が国は麻しんの排除状態にありますが、海外では流行がみられている国や地域があり、令和7年も国外で感染したと推定される事例が全国で報告されました。

麻しんウイルスは感染力が非常に強く、患者と同じ公共交通機関を利用しただけで感染する場合があります。患者と接触後10～12日程度の潜伏期間を経て発症するため、特に流行地域から帰国後2週間程度は体調の変化に注意が必要です。また、発熱や発しん等の疑わしい症状がみられた際は、医療機関に電話等で連絡してから受診してください。受診の際は公共交通機関等の利用は避け、周囲の方に感染させないようにしましょう。

渡航後の注意事項

- ✓ 帰国後2週間程度は、麻しん発症の可能性もあるため、健康状態に注意する。
- ✓ 発熱や発しん等の症状がみられた場合は、医療機関に事前に連絡してから受診する。
- ✓ 医療機関には、帰国後であることを伝える。
- ✓ 受診する際は、可能な限り公共交通機関を使用しないようにする。

麻しんとは？

【感染経路】

飛沫感染、接触感染、空気感染

【潜伏期間】

7～18日間（最長21日間程度）

【主な症状】

発熱、発しん、咳、鼻汁、結膜充血等

【予防方法】

麻しん含有ワクチン（MRワクチン等）の接種

【経過】

